

## 第1学年 国語科学習指導案

1. 日時 令和2年10月2日(金) 2限目  
2. 学年・組 1年2組(19名)  
3. 単元名 「おもいうかべながら よもう」  
『くじらぐも』

### 4. 単元目標

- ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思C(1)エ)
- 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知(1)ク)
- 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思C(1)イ)

### 5. 単元の評価規準

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力	学びに向かう力, 人間性等
・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク)	・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ)	・これまでの学習をいかして、積極的に想像力を広げて物語を読み、想像したことを伝えようとしている。

### 6. 単元設定の理由

#### (1) 児童について

本学級の児童は、読書好きな児童が多く、物語作品を読むことにも非常に意欲的である。物語の内容のおおよそを理解できている児童が多いが、内容を間違えて捉えていたり、言葉自体を正しく読めていなかったりする児童も見られる。答えがわかりやすい問題には自信を持って手を挙げられる児童が多いが、一方で、自分の考えや意見、想像したことなどを発表するとなると、手を挙げられなくなる児童もいる。

これまでに、『はなのみち』『おおきなかぶ』『やくそく』の3つの物語文を学習し、動作化したり、声に出したりして、物語を楽しみながら、「想像を広げながら読む」ことの経験を積んできた。4つ目の作品となる本単元『くじらぐも』では、くじらぐもや子どもたちの会話を想像することで、場面の様子を思い描けるようにさせたい。心と体を使って楽しみながら、自分たちと同じ1年2組の子どもたちが活躍する物語の内容に共感し、想像させていきたい。

#### (2) 教材について

本教材は、児童が自分の日常に起きるかもしれない出来事として想像して読むことができるファンタジー作品である。体育の授業時間という現実の中から、幻想の世界に入り、想像の世界で存分に遊んだ後に、また現実の時間と空間に戻る。物語開始の場面は身近で入りやすく、入ってみると一挙に創造の広がり誘い込んでくれ、そしてまた、元通りの現実世界に戻してくれるという、児童が安心して空想の世界で遊ぶことができる物語である。自分たちと同じ1年生が、大空を舞台にして活躍する内容は、共感しながら大いに楽しんで読むことができるだろうと考える。言葉(叙述)をもとに想像を楽しんで声に出して読み、声に出して読んではまた想像を深めることを大切に考えたい。さらに、場面の様子や子どもたちとくじらぐもの行動、会話などを捉え、その世界を豊かに想像し、一人一人の感想を互いに共有することにより、さらに自分の考えを形成する機会としたい。

### (3) 指導について

内容理解に関しては、各場面の学習のはじめに児童が音読し、教師が内容に関する問い直しを行う。叙述とはかけ離れた想像ではなく、物語から連想できるような、叙述を基にした想像を大切にしたいので、デジタル教材で本文を提示することで、一語一語の理解をていねいに指導したい。さらに、物語の内容をより想像しやすくするために、登場人物たちの様子を動作化する活動を取り入れたい。登場人物たちと同じように体操したりジャンプしたりするほか、海や街を見下ろしている様子を疑似体験させることで、くじらぐもに乗っている子どもたちの気持ちや様子を想像しやすくする。また、子どもたちの視点だけでなく、空を泳いだり、子どもたちを応援したりするくじらぐもの気持ちや様子を想像させたい。さらに、大きなくじらぐもの掲示物に、児童が事前に描いたミニチュアサイズの自分を貼ることで、くじらぐもに乗っている子どもたちの気持ちを想像しやすくする。

また、本単元では、想像を膨らませながら、声に出して読む活動を多く取り入れる。くじらぐもと子どもたちの声を変えさせたり、声の大きさを工夫させたりと、変化をつけて音読を楽しめるようにしたい。

それに加えて、これまでも『いちねんせいのおた』という詩を学習し、『ぐりとぐら』の読み聞かせを行った。これらの作品は、本単元『くじらぐも』の作者、中川李枝子さんの作品である。さらに、中川李枝子さんの作品を集めたコーナーを教室に設置することで、読書への関心を高めたり、読書の機会を増やしたりするほか、同じ作者の作品に触れるきっかけを作ることを目指している。

一人一人が感じたことを安心して発表できる場を多く設けることによって、考えを共有し、見方・考え方を広げる機会を増やすことを目指す。さらに、答えがわかりやすい問題には自信を持って手を挙げられる児童が多いが、一方で、自分の考えや意見、想像したことなどを発表するとなると、手を挙げられなくなる児童もいるため、自分の考えに自信を持てるよう、机間指導で「いいところに気が付いたね」「とてもよくかけているね」というような声かけをする。また、手が止まっている児童には、思考を引き出すような言葉かけをし、個別に支援を行う。

7. 指導計画 (全8時間)

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
第1次	1・2	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文を読んで物語の流れをつかみ、場面分けをする。</li> <li>台詞に着目し、誰が何を言ったのかを確認する。</li> <li>新出漢字の読み方と筆順、言葉の使い方を学習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作者の中川李枝子さんは、以前学習した『いちねんせいのうた』の詩や、読み聞かせを行った『ぐりとぐら』の作者でもあることを知らせ、関心を持たせる。</li> </ul>	<p>【態】『くじらぐも』を、想像を広げながら楽しんで読もうとしている。[発言、ノート]</p>
第2次	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1場面を読み、くじらぐもと子どもたちの出会いの様子や、気持ちを想像する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物たちの様子を想像して動作化することで、内容をより捉えやすくする。</li> </ul>	<p>【知】語や文のまとまりに注意して音読している。[音読]</p> <p>【思C】場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。[ワークシート]</p> <p>【思C】場面の様子や登場人物の行動から想像を膨らませている。[ワークシート・発言]</p>
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2場面を読み、くじらぐもに飛び乗ろうという気持ちになる様子を読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちとくじらぐもの「おうい」の呼び方の違いについて話し合ったり、くじらぐもと子どもたちになりきって役割読みをしたりすることで、変化をつけて音読させる。</li> </ul>	
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3場面を読み、子どもたちがくじらぐもに飛び乗ろうとしている様子や気持ちを想像する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3場面の様子を想像することで、台詞の読み方を意識して音読させる。</li> </ul>	
	6 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>第4場面を読み、くじらぐもに乗って空の旅をする様子や気持ちを想像する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>叙述を大切にしながら、子どもたちの気持ちだけでなく、くじらぐもの気持ちも想像させる。</li> </ul>	
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>第5場面を読み、くじらぐもと子どもたちのお別れの様子や気持ちを読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第5場面におけるくじらぐもや子どもたちの気持ちや様子を想像させるとともに、物語を振り返る。</li> </ul>	
第3次	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>お別れするくじらぐもにお手紙を書く。</li> <li>本単元の振り返りを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回の振り返りをするとともに、お別れするくじらぐもに手紙を書かせる。</li> <li>学習掲示などで、ここまで学習してきたことを全体で振り返ってから、振り返りを書かせる。</li> </ul>	<p>【思C】物語を読んで想像したことや感想を伝え合って共有している。[発表]</p> <p>【態】読んで想像したことや、学習を終えた感想をまとめていく。[ワークシート]</p>

8. 本時の目標

○空の旅をするくじらぐもや子どもたちの気持ちや様子を想像することができる。

9. 本時の展開 (6/8時間)

	学習活動・主な発問 (○)	予想される児童の反応	評価 (◇) と支援 (・)
導入 (3分)	1. 前回の振り返りをし、本時のめあてを確認する。 ○今日は、くじらぐもや子どもたちになりきって、空の旅をします。子どもたちやくじらぐもは、空の旅をしながらどんなお話をしたのか、想像してみましよう。		・前の場面で、子どもたちがくじらぐもの上に乗ったことを思い出させる。
めあて：くじらぐもや 子どもたちの きもちやようすを そうぞうしましよう			
展開① (20分)	2. 第4場面がどこからどこまでか確認する。 ・「さあ、およぐぞ」～「どこまでもつづきます」まで 3. 全員で第4場面を音読する。 4. 内容を確認するとともに、動作化しながら子どもたちやくじらぐもの様子を想像する。 ○くじらぐもは、みんなを乗せてどうしましたか。 ○どこへ行きましたか。 ○何が見えますか。 ○みんなはどうしましたか。	・げんきいっぱいすんでいきました。 ・うみ、むら、まち ・魚が見えます。 ・電車が走っています。 ・うたをうたいました。	・デジタル教材を用いて、どの場面かわかるように児童に提示する。 ・事故防止のため、椅子の上に乗る際は安全面に注意する。 ・児童にとって、村という言葉に馴染みがないと思われるので、村とはどんな場所なのかを説明する。さらに、挿絵に着目させることで、視覚的にも海、村、町の様子を想像しやすくする。
展開② (20分)	5. 子どもたちとくじらぐもの気持ちや様子として想像したことをワークシートに書き、発表する。 ○想像したことをプリントに書きましよう。 ○書いたことを発表しましよう。	—子どもたち視点の意見— ・うみがとってもきれいだね。 ・次はどんな歌を歌おうかな。 ・楽しいね。空って気持ちいいね。 —くじら視点の意見— ・空ってとても気持ちがいいですよ。 ・みんなが乗ってくれたから頑張っけて泳ぐぞ。 ・みんなと一緒に空を泳げて楽しいなあ。	◇場面の様子や登場人物の行動から想像を膨らませている。[ワークシート・発表] ・何を書いたらいいのか思いつかない児童には、場面の展開を簡単に説明し、そのときのくじらぐもや子どもたちの気持ちを想像してみるよう机間支援を行う。 ・叙述とかけ離れた想像をしている児童がいた場合は、否定せず、叙述に合った想像をするよう促す。
まとめ (2分)	6. 本時の振り返りをし、全員で音読する。 ○くじらぐもと子どもたちの楽しい気持ちを想像しながら、もう一度みんなで音読しましよう。		・これまでの叙述や児童から出た意見を振り返らせる。